

報告事項 ク

「第3回とっとり発メディアとの接し方フォーラム」の実施結果について

「第3回とっとり発メディアとの接し方フォーラム」の実施結果について、別紙のとおり報告します。

平成19年11月8日

鳥取県教育委員会教育長 中 永 廣 樹

## 「第3回とっとり発メディアとの接し方フォーラム」の実施結果について

家庭・地域教育課

### 1 趣 旨

テレビやゲームなど多様なメディアは、子どもたちの成長過程へさまざまな影響を与えている。また、急速に広がるインターネット、携帯電話の利用による子どもたちを取り巻く環境は大きく変化している。

こうした中、現状の認識と問題の共有化及び啓発を目的に昨年度開催した第2回フォーラムの内容を発展させ、子どもたちを取り巻くメディア環境の課題解決に向けた地域でのネットワークづくりや、今後のメディア教育の可能性を探る。

2 参加者数 210名（保護者、学校教職員、小中高校生、メディア関係者など）

### 3 概 要

#### (1) 期 日

平成19年10月20日（土） 午後1時から午後5時20分

#### (2) 会 場

湯梨浜町中央公民館（湯梨浜町龍島505）

(3) 内 容（開催テーマ：～子どもとメディアとのより良い関係づくりを支える地域づくりのために～）

【アトラクション】「携帯電話利用で遭遇した問題などをテーマにした寸劇」

出演：シアター・ザ・ウェイブ

携帯電話を利用する際に遭遇する状況について、参加者から出た話題をテーマに寸劇をしていただいた。

#### 【実践発表】



○「メディアを考える日」の取組について

鳥取市私立幼稚園PTA連合会 会長 奥本倫久さん

副会長 今度珠美さん

○「テレビを(○)けて (○)たのしく会話 (○)かぞくで○○しよう」

浜村小学校教育振興会副会長 宇津原あけみさん

浜村小学校教諭 加藤昭二さん

○「今時の高校生のケータイ事情」

県立倉吉東高等学校2年生

土海和之さん、牧島惇さん、定常孝浩さん

県内において、メディアとの接し方についての実践的な取り組みを行っている団体からの発表や高校生のケータイについての実態の発表の後、質疑応答によりメディア環境の現状について理解を深めた。



#### 【パネルディスカッション】

「子どもとメディアとのより良い関係づくりを支える地域づくりのために」

〔パネリスト〕

ぐんま子どもセーフネットインストラクター活動委員会

副委員長 小此木正信さん

茨城県メディア教育指導員 鈴木慶子さん

鳥取県ケータイ・インターネット教育推進員

竺原晶子さん

〔アドバイザー〕

群馬大学社会情報学部大学院 下田博次教授

鳥取環境大学環境情報学部 福山峻一教授

文部科学省 スポーツ・青少年局青少年課

調査係 係長 蓮見直子さん



〔コーディネーター〕

鳥取発メディアとの接し方フォーラム実行委員会長

鳥取大学教授 山岸正明

群馬、茨城、鳥取各県の実践者の発表を聞き、アドバイザーも加わりケータイ・インターネットの有用性及び危険性について話し合いを深め、PTAやNPO等様々な団体を巻き込み「知っている者が知らない者に伝える」活動を通して今以上に子どもとメディアとのより良い関係づくりを支える地域づくりをしていくことを確認した。

#### 4 フォーラムの成果

携帯電話の危険性をはじめとしたメディアの弊害について正しく理解するとともに、子どもとメディアとの正しい接し方について考える良い機会となった。

また、家庭・学校・地域社会において、今後取り組むべき方向性について確認し合うことができた。

#### 5 フォーラム参加者のアンケート結果と主な意見

##### (1) アンケート結果

肯定的 87.8% (たいへん良い、良い)、否定的 12.2% (やや物足りない、物足りない)

## (2) 参加者からの主な意見

- ・メディアの怖さに改めて何とかしなければという思いが十分に伝わった。機会を捉え伝えていきたい。
- ・ケイタイ・インターネットの取り組みを、PTA、学校から発信していきたいと思った。
- ・高校生の発表はとてもすばらしく、若い大きな力を感じた。親世代の問題意識をもっともっと高めていく必要がある。自分自身も小さな発信をしていきたいと思う。
- ・パネルディスカッションでの事例発表はとても参考になった。大人が子どもに与える影響を強く感じた。
- ・今後も続けてもらいたい。情報技術の進展が急激で地上デジタル通信が開始されれば双方向となり、あっという間に全ての県民がインターネット環境を利用することになる。全ての世代が利用のあり方や方法を学ぶ機会が必要と思われる。
- ・ITの正負の理解とあわせて、どういう地域づくりを行うのか、中でも健全育成（児童生徒の安全と地域、保護者、大人の役割）をどう考えるか。関係団体、機関との連携が必要である。
- ・いろんな立場の方の話が聞けてよかった。フロアー（会場）からの声もよかった。
- ・専門家の意見を聞くことができ、よい機会となった。法規制と自己防衛についても考えさせられた。
- ・メディアの受け側、発する側の意識を同じにすることが子ども達の将来を守ることになるのではないかと。放送局も多数、後援されているので期待したい。
- ・参加者が少なく残念。意識がまだまだ低い。
- ・取り組みは参考になったが結果について報告はなかったのでは？子どもたちを全部救うのが目標のほうではないか。自己責任との考え方が所々に見えてくる。最低限の規制を国・企業は取り組まなくてはならないのではないかと。人権意識の向上もより重要と思う。
- ・より具体的な討論、例えばディベートのように対立軸のあるフォーラムは出来ないものか。（ノーテレビやネット、ケータイは悪いというベクトルのみのパネリストは方向性が同じでフォーラムとしては平板化してしまう。）  
リテラシーという視点でどうしたら良いか、についてもっと討論を積み重ねて欲しい。
- ・一般の人の意見をもっと聴く時間を増やして欲しかった。